

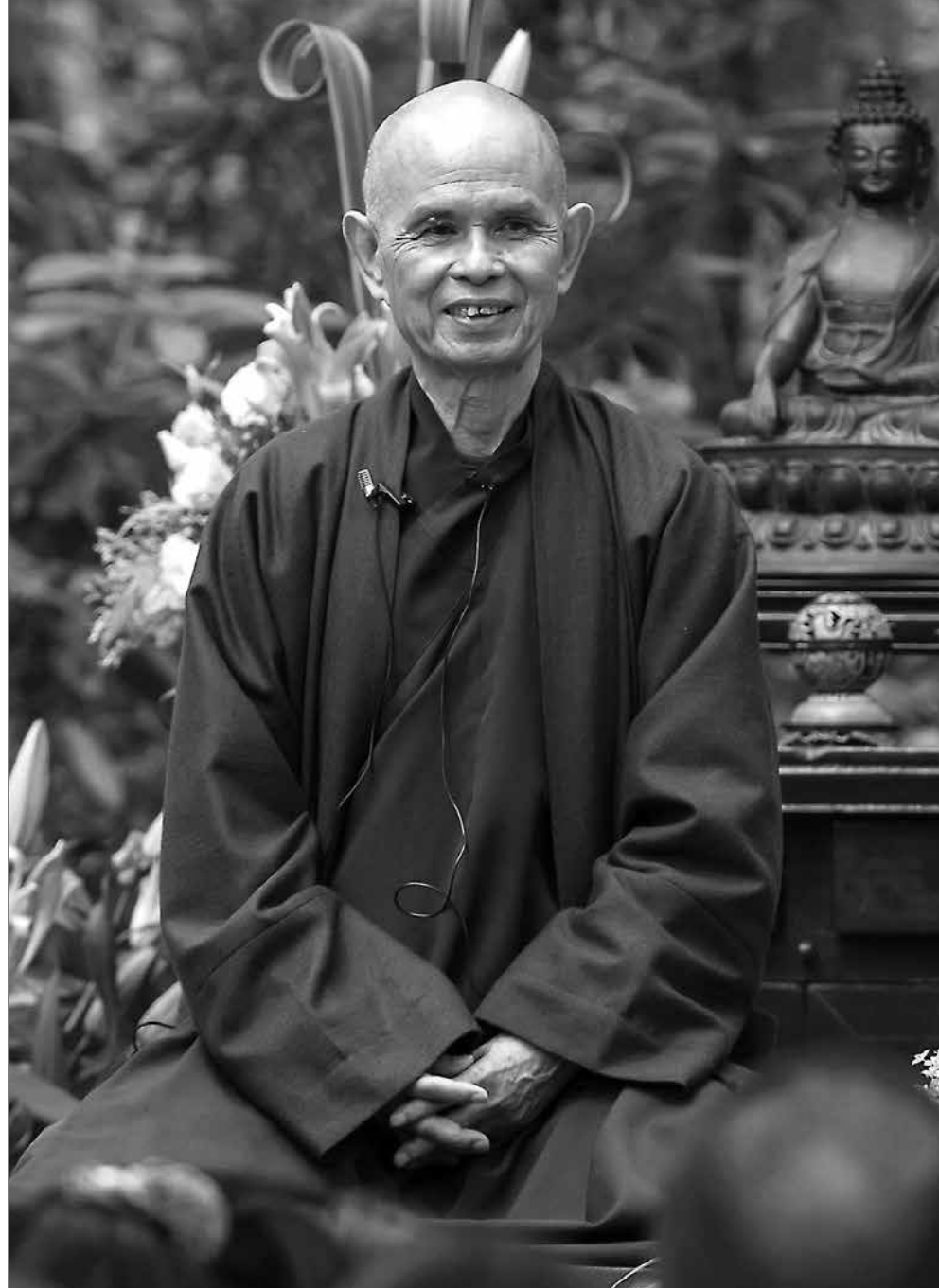


テイク・ナット・ハン詩集 島田啓介訳

私を本当の名前で呼んでください



テイク・ナット・ハン詩集 私を本当の名前で呼んでください 目次



メッセージ 14

故郷に返させてほしい 59

青々と茂る庭園 17

見とどけた眼 63

ムードラ 21

平和 64

経験 26

祈りの炎 66

ぬくもりのために 38

安らぎの朝 77

祈りの夜 40

新しき村 81

あなたへの提案 45

平和のための祈り 86

真理のかたち 50

君の心がつくりだすこと 90

決意 52

非難について 93

爆発しなかった者たちへ 54

未来に輝く太陽 96

肉と皮、煉瓦とタイル 101

孤児院の庭で会った君 147

孤独な見張り塔 106

私がハートを捨てるその日 150

私の両手 111

バビータ 154

黙想の夜 115

ボートピープル 157

わが兄弟を焼いたその火 120

大海原に咲いた蓮の花 160

アルフレッド・ハスラーの思い出 125

陸を求める祈り 164

詩の松明はいまも輝く 129

輝く星よ、暗闇に祈ろう 167

自由な白雲 132

私を本当の名前で呼んでください 173

東と西 139

漁師と魚 178

だれもない道 143

黄金の芥子畑を舞う蝶 182

目覚めの果実の実り 145

古いページを開きに帰ってきた 191

いつも同じ心で 195
村の子ども時代 198
ふるさと 200

不去不来のうた 201
存在 207
小さな星 209

涅槃の章

本門

◎ほんもん……………215

巨鳥の羽音 216

太陽を追いかける水牛の仔 240

ゆく手をはばむ美しき春 219

本当の源 265

留め金をはずす 222

互いを探し求めて 269

静寂 224

今朝旅立つ君に 275

四月 230

手招き 276

遠い日の秋の朝 278

見知らぬ岸辺 298

静寂 282

心の月 302

消滅 283

カオ・フォン 304

空の滴 285

両腕からこぼれる詩、太陽光の滴 305

長い旅 286

森の中で 310

幻想の変容 287

不二の次元 312

動くもの 289

一本の矢、ふたつの幻想 315

午後の川と大地の心 290

古の托鉢僧 321

徳高き人 292

顕現 326

パドマパニ 294

川の物語 328

スリランカ 296

インタービーイング 334

無題 412
ほんとうの遺産 414
良き報せ 417
触地印 420
ゆだねの祈り 423
身をゆだねる 426
無題 429
歩く瞑想 432

一歩一歩 435
カッコー電話 436
大地に触れる 439
呼吸 446
道を広く開けなさい 449
訳者あとがき 452

愛の詩 336
支え合ういのち 343
あなたは私の庭 345
ヒューズを抜いてくれ 347
きつと帰ってくるだろう 351
満月祭 353
不二 356
旅路 361
輪廻を止める 366
月見 369
ひまわり 371

無題 373
誕生と死 374
偉大なる獅子吼 376
流れに飛びこむ 390
まるごとすべてが 394
座る場所 398
蛙寂滅の境地 399
輪の中をめぐる人よ 401
生まれたての二十四時間 403
ルネッサンス 406
虹の子どもたち 408

俗世に深く触れば
涅槃に自らを見いだすことができる
涅槃に触れているかぎり
俗世から離れることはない――

Call me by my true names: the collected poems of
Thich Nhat Hanh, Parallax Press
by Thich Nhat Hanh

Copyright © 1999 by Unified Buddhist Church, Inc.
All rights reserved.

No part of this book may be reproduced by any means, electronic or mechanical,
or by any information storage and retrieval system,
without permission in writing from Unified Buddhist Church, Inc.

Japanese translation rights arranged with
Cecile B Literary Agency
through Japan UNI Agency, Inc., Tokyo.

俗世の章

迹門

© じゃくもん



メッセージ

人生が 私の額に足跡を残していった
けれど今朝 私はふたたび幼子に帰る
葉や花々に見え隠れしていた
微笑みがいま蘇り
浜辺の足跡を拭う雨のように
額の皺を消してゆく
誕生と死のめぐりがまたはじまる

不安を胸に抱きつつも 私は決然とゆく
花園を歩むように
面を上げて進む

爆弾と迫撃砲の轟音の中 謡は花開く
昨日流した私の涙が いま雨となり降り注ぐ
茅葺きの屋根を打つ雨音は 心に安堵を広げてゆく
幼年時代が 故郷が 私を呼んでいる
雨が絶望を溶かし流す

こうして永らえた私は いま静かに微笑める
苦しみの樹が 甘い果実を実らせたのだ！
わが兄弟の亡骸をかつぎ
闇の中 田んぼを横切って進む
大地が両腕で しっかりと抱きとめてくれるから
明日にはきつと 君は花に生まれ変わる
朝の草原で静かに微笑む花々に
いまはもう泣くこともなくなった兄弟よ
一緒に あの深い闇の中を乗り越えてきたね

今朝

君がそこにいるのに気づいて

私は草に跪ひざまずく

花は 言うに尽くせぬ奇跡の微笑みをたたえ

沈黙のことばで話しかけてくる

メッセージ

愛と理解のメッセージは

たしかに私たちに届いている

——一九六四年にサイゴンで書いた詩。一九六六年、アメリカで戦争の和解をうながす友愛会のクリスマスカードとして配布された。

青々と茂る庭園

宇宙の中の十の場より いっせいに火の手が上がる

荒れ狂う風が その火をあらゆる方角から私たちに容赦なくあびせかける

遙か遠くに 美しき山はそびえ 川は流れる

あらゆるところ 地平までが死の彩いろどりに燃え立つ

私はいえば いのち承らえてはいるものの

身と心は苦悶する その炎に包まれたかのように
乾ききったこの目からは すでに涙もこぼれない

この夕べにどこへ向かおうとするのか？ 兄弟よ どこを目指して
銃火の破裂音が間近に迫る